

- JAアルプス管内のコシヒカリの出穂期は、8月1日と平年並みになりました。出穂期以降の20日間の気温は平年よりやや低く推移しました。
- コシヒカリの刈遅れと急激な乾燥を防止することで、胴割米のない高品質なアルプス米に仕上げましょう。

1 コシヒカリの適期刈り取り



【YouTube】
16 収穫作業

- ・収穫時期は籾の黄化程度で判断し、籾黄化率85%を目安に刈取りを始め、適期内に刈取りが終了するよう努めましょう。
- ・砂壤土や枯上がりの早い圃場から刈り始め、刈り遅れによる胴割米の発生を防ぎましょう。



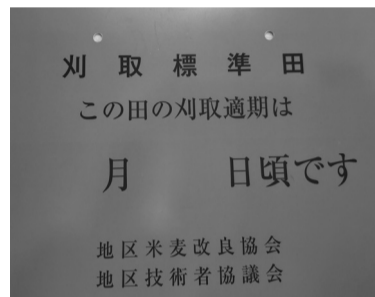
< 胴割米 >

胴割米が
1番困る
んだよね



【コシヒカリの出穂期別刈取り開始適期の目安】

出穂期	刈取開始適期 籾黄化率 85%
7月30日	9月6日～7日
8月1日	9月8日～9日
8月5日	9月13日～14日



地域により成熟期に差があるため、必ず「刈取適期表示札」を参考にしてください。

○刈取り作業の注意点

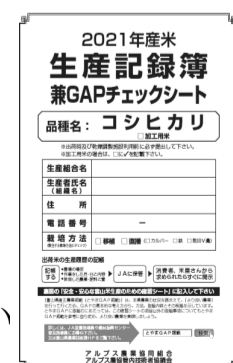
- ・刈り取りは、籾が乾いてから開始しましょう。
- ・扱胴回転数、扱き深さ等を適正に調節しましょう。
- ・ヤケ米発生防止のため、収穫後4時間以内に乾燥機に入れ送風しましょう。
- ・コンバインの各部につまりや故障が発生した場合は、必ずエンジンを止めてから対処しましょう。

2 カントリーエレベーターやライスセンターからのお知らせ

- ・平日利用助成、遠隔地利用助成、早生・晩生利用助成、大口利用助成の各種利用助成制度を利用しましょう。
- ・コシヒカリの平日利用助成の設定日は9月13日（月）～17日（金）です。なお、生育状況や今後の天候により、変更となる場合があります。

3 生産記録簿兼GAPチェックシートについて

- ・安心安全な農産物を生産するため、生産記録簿兼GAPチェックシートの記帳徹底を推進しています。
- ・生産記録簿を記帳することで、次年度栽培基準の見直しや、安心安全な農産物の出荷を継続して行うことができますので、必ず記帳し提出をお願いいたします。



生産記録簿は、出荷時や乾燥調製施設利用前にJAに提出して下さい

4 土づくり対策



【YouTube】
1 土づくり

「秋の土づくり運動」 9月15日～11月15日

高品質・安定生産に向け、
この秋「土づくり」に取り組み
ましょう！



健全な土は、高品質アルプス米の生産に必要不可欠です。
次年度の米づくりのため、秋からしっかり土づくりを行いましょう。

(1) 土壌改良資材の継続的施用

JAアルプス管内の土壌の特徴は、土壌pHが低く、ケイ酸分が不足しています。
不足分を供給できる土壌改良資材を施用しましょう。

【土壌改良資材の標準施用量と施用効果】

資材名	10a当たり施用量	ケイ酸分(%)	アルカリ分(%)	特 徴
粒状ケイカル	200kg	30.0	45.0	ケイ酸を供給して茎や葉が強くなる 倒伏やいもち病に対して抵抗力が増す
元 気	100kg	24.0	32.0	ケイ酸、苦土の他、有機質15%入り
シリカロマン	100kg	25.0	45.0	ケイ酸の他、鉄、リン酸、苦土が一度に供給可能
シンキョーライトP	100kg	(66.1)	—	天然ミネラルを含み、根張り促進、保肥力の改善

(2) 秋耕しの実践

- ・ 稲わらやもみ殻のすき込みを、気温の高い10月中に行いましょう。
- ・ 秋耕後は排水溝を設置して、圃場の排水を促し、腐熟を促進しましょう。
- ・ 貴重な有機資源である稲わらやもみ殻は、必ず土壌に還元しましょう。
- ・ 秋耕しをした上で春耕しをすることにより、深耕が可能になります！



(3) 有機物の施用

- ・ 有機物の施用により、土壌の腐植を増やし、保肥力を高めましょう。
- ・ 稲わらのすき込みに加え、特に腐植の少ない圃場では堆肥を積極的に施用しましょう。
- ・ 堆肥確保が困難な地域では、発酵鶏ふんの施用や緑肥作物の栽培・すき込みを行いましょう。

【堆肥施用の目安（秋施用の場合）】

資材名	施用量 (10a当たり)
発酵鶏ふん	100～150kg
牛ふん堆肥	1～2t
豚ふん堆肥	1～2t

【緑肥作物（冬作物）】

作物名	播種時期	播種量
ヘアリーベッチ	水稻刈取後～10月中旬	3～4kg/10a
ヘアリーベッチ +ライ麦	水稻刈取後～10月中旬	ヘアリーベッチ: 2kg/10a ライ麦: 5～6kg/10a

<栽培上の注意点>

- ヘアリーベッチは肥料不要です。ヘアリーベッチ+ライ麦の場合は、ライ麦生産確保のために、窒素5kg/10aを全面施肥してください。
- 初期の湿害に弱いので、排水対策を実施してから播種しましょう。
- 播種時期が遅れると生育量の確保が困難になるため、出来るだけ早い時期に播種しましょう。

○「ごま葉枯病」 ～葉にごま粒状の病斑がでます～

- ・ ごま葉枯病の発生は、土壌条件や稲体の栄養条件と関係が深く、生育後半に稲体活力が低下した場合や、土壌養分である「ケイ酸」、「カリ」、「鉄分」などが少ない圃場で多発します。
- ・ 今年度発生が見られた圃場では、積極的に「土づくり」に取り組み、ごま葉枯病の発生抑制に努めましょう。



～農作業機械で道路を汚したら、必ず掃除しましょう～